

96**ktunes**
RACING

🇯🇵 M.NITTA 🇯🇵 Y.NAKAYAMA

Super GT 2018 Rd,5 FUJI GT 500mile Report 2018/8/5

Final Day Summary

17番手からスタートしたK-tunes RC F GT3はライバル勢と異なる戦略を採って500マイルの長丁場を最後まで戦いきり10位に入賞しポイントをゲット。

Final Day

500マイルの耐久レースとして開催されることとなった AUTOBACS SUPER GT 第5戦「FUJI GT 500mile RACE」の決勝レースが8月5日（日）に実施された。

K-tunes RC F GT3は、4日（土）に実施された予選 Q1 を中山雄一選手が担当し1分38秒684をマークするが、予選 Q2 に進出するにはコンマ2秒ほど足りず、決勝レースは17番手からスタートすることとなった。

予選から一夜明けた富士スピードウェイは、早朝から日差しが強く、ドライバーやメカニック、3万8300人の観客にとっても過酷な環境下での500マイルレースとなったはず。500マイルという長丁場の決勝レースのために、普段ならばお昼時に設けられるピットウォークは10時20分から開始され、ウォームアップ走行は11時55分から20分間に渡って実施された。

決勝レース前の最終調整となるウォームアップ走行は、新田守男選手が3周、中山選手が6週の計9周を走行。1分40秒123のベストタイムを記録し15番手の結果となった。

決勝レースは予定通りの13時30分にパレードラップによって幕を開け、GT500クラスの15台とGT300クラスの28台が500マイルの耐久レースに挑んだ。



Final Day

新田選手がステアリングを握った K-tunes RC F GT3 は、後方からのスタートとなったためライバル勢とは異なるピットタイミングの戦略を採ることになる。1 周目を終えた時点で新田選手はピットに戻り、中山選手にバトンタッチ。今戦は、最低でも 4 回のピットインが義務付けられていて、そのタイミングはチームの判断となる。

2 周目に 25 番手でコースに復帰した中山選手は、1 分 40 秒～ 41 秒台のラップタイムをコンスタントにマークして、10 周目には 24 番手、20 周目には 22 番手、30 周目には 13 番手と徐々に順位を上げていく。40 周目には全車が 1 回目のピットインを終え、この時点で K-tunes RC F GT3 は 6 番手となり、42 周目に 2 回目のピットストップのためにピットレーンにマシンを進めた。タイヤ交換と給油を行なうとともに中山選手から新田選手に交代し、21 番手でコースに復帰。新田選手も 1 分 41 秒台のラップタイムを中心に追い上げを図るが、ウエイトハンデや BoP によって増した車重の影響もあり思うように順位を上げられない。ライバル勢とピットストップのタイミングが異なるため 50 周目には 19 番手、60 周目には 18 番手、70 周目には 11 番手となるが、実質の順位は全車が最後のピットストップを終えるまで分からない。

レースが折り返しを過ぎた 85 周目には 3 回目のピットインを実施して、中山選手が第 4 スティントの走行に入る。19 番手でコースに入った K-tunes RC F GT3 は順調に走行を重ね、100 周目に 15 番手となり、ポイント獲得を狙っての戦いが続いた。レースが終盤を迎えた 120 周目を過ぎると、最後となる 4 回目のピットストップを迎えるマシンが増えていく。K-tunes RC F GT3 も 127 周目に 4 回目のピットインを行なって、中山選手から新田選手にバトンタッチ。気温が低くなってきたこともあり、チームはこれまで使用していたミディアムタイヤからソフトに変更して最終の第 5 スティントで追い上げを図った。16 番手でコースに復帰した新田選手は、130 周目 14 番手、140 周目に 12 番手となりポイント獲得の 10 位以内まであと一步のところまで迫る。145 周目には先行車が最後のピットストップを行なったために 11 番手となるが、10 番手とのタイム差は約 50 秒でポイント獲得が絶望かに思えた。しかし、ファイナルラップ直前の 158 周目に 6 番手を走行していた 21 号車の Audi R8 LMS がタイヤのパンクによって後退。最後まで粘り強く走行を続けて、チーム全員が諦めずに戦った K-tunes Racing LM corsa は、162 周目に 10 位でチェッカーを受けた。

長いストレートと登りの低速コーナーが続くセクター 3 と RC F GT3 が苦手としている富士スピードウェイでの戦いだったが、現状での全力を出し切って 10 位で入賞を果たした。次戦は、得意なコースレイアウトのスポーツランド SUGO が舞台となるので、上位を目指して大幅なポイント加算を狙っていく。

Team Comment



Director : 影山 正彦

決勝レースは 17 番手からのスタートだったので、スタート直後の 1 周目にピットインを行なってライバル勢と異なる戦略を採りました。戦略としては悪くなかったと思いますが、ラップタイムが上がらずに苦しい展開が続きました。厳しい状況のなかでもドライバーを含めてチームの全員が最後まで諦めなかったことが、10 位でポイント獲得につながったと思います。



Driver : 新田 守男

決勝レースの最後は 10 位に入れてポイントを獲得できたのは良かったのですが、実力で取ったのではなく先行車のトラブルだったので悔しい気持ちもあります。予選と決勝レースともにマシンに速さがなく苦しいレースとなりました。RC F GT3 はストレートが伸びず、セクター 3 の低速で登りのコーナーは特に苦手でした。このウィークポイントを改善しないと今後のレースも厳しい結果となるはずなので、チームとともに解決策を見つけたいです。



Driver : 中山 雄一

決勝レースは、スタート後に新田選手と交代して乗り込み、その後の第 4 スティントも担当しました。序盤は 1 分 40 秒台が出ていたのですが、すぐにタイヤのグリップ感が薄れてきてライバル勢を追うことができませんでした。もしかしたら、タイヤのピックアップが原因かもしれません。10 位という結果は、持っている実力をすべて出し切ったと思うので仕方ないです。次戦の菅生は、RC F GT3 との相性が良いので、最低でもトップ 5 を狙っていきます。

2018 年スーパー GT レーススケジュール

▶ 9.15-16 Round.6 SUGO